

指定管理者制度導入施設の第三者評価結果

開催日	令和7年10月20日		
公の施設の名称	芦屋市聖苑		
指定管理者の名称	太陽築炉工業株式会社		
所管課名	市民生活部 環境・経済室 環境課		
指定期間	令和5年4月1日～令和10年3月31日		
所在地	芦屋市三条町39番32号		
施設概要	火葬施設（人体炉：3基、動物炉：1基）、休業日：1月1日及び施設の点検日（年間9日程度）、営業時間：午前10時から午後6時まで		
業務概要	火葬場の管理運営業務		
収支の状況	事業計画上の金額	実績	額
R5年度収入	37,734,000円	37,675,722円	
R5年度支出	37,701,000円	39,652,734円	
R5年度収支	33,000円	-1,977,012円	
R6年度収入	37,996,000円	39,742,427円	
R6年度支出	37,930,000円	40,038,988円	
R6年度収支	66,000円	-296,561円	
選定・評価委員	委員構成	氏名	所属・役職
	1号委員 (学識経験者)	倉本 宜史	学校法人 京都産業大学 (教授)
	1号委員 (学識経験者)	石井 隆之	RSM清和監査法人神戸事務所 (公認会計士)
	2号委員 (諮問に係る公の施設に関する専門的知識を有する者)	北川 加津美	芦屋都市管理株式会社 代表取締役社長
	3号委員 (市職員)	柏原 由紀	芦屋市 企画部長
評価対象期間	令和5年4月1日～令和7年3月31日の2年間		

評価項目	説明	点数	得点率	評価
1 全般的事項		40		
書類全般	事業計画書、事業報告書、月次報告書等は、市が必要と認める事項が記載され、市が定める期限までに提出されているか	36	90%	B
2 適正な施設の管理		200		
施設保守・運営管理	施設の保守・管理が適正に実施されているか			
従業員管理	適正な労働環境が保持されているか			
危機管理	事故・緊急時の体制が十分に整備されているか			
個人情報管理	個人情報の管理が適正であるか			
研修計画	従業員研修が十分に実施されているか			
3 事業収支・指定管理者の財政基盤・内部統制		80		
事業収支	事業収支は適切に算出され、計画に沿っているか			
財政基盤	財政基盤は安定的にサービスを提供できる状態にあるか			
内部統制	業務運営に関する内部統制は有効に機能しているか			
4 サービスの質の維持・向上		80		
事業計画性、透明性	事業が計画的に、かつ透明性を確保して実施されているか 提案されていた自主事業等に計画通り、取り組んでいるか			
サービス向上	サービス向上の取組みがされているか			
住民・利用者の参画	住民または利用者とのパートナーシップを推進しているか			
	得点率	80%		A

利用状況等	項目名	令和4年度	令和5年度	令和6年度
		実績	実績	実績
	10歳以上の者	1,046件	1,058件	1,131件
	10歳未満の者	0件	2件	2件
	死産児	5件	3件	5件
	人体の一部	0件	3件	0件
	動物	99件	96件	96件

総合評価	評価の理由
A	評価対象期間中にベテラン職員が2名退職するという緊急事態が生じたが、会社全体でバックアップ体制をとり、事業に支障が出ないよう対応した点は評価できる。一方で、火葬件数は約20年間で倍増しており、今後も増加傾向が見込まれるのであれば、より安定的な運営が可能な人員体制の整備が求められる。また、職員や業務の質をより向上させていく上で、外部研修や内部監査にも力を入れられたい。

総合評価結果	得点割合	
S 優良	90%以上	目標・計画を大きく上回る。優れた管理運営が行われたもの
A 良好	75%以上	目標・計画を上回る。良好な管理運営が行われたもの
B 適正	60%以上	計画に沿ったものである。適正な管理運営が行われたもの
C 要努力	50%以上	目標・計画を下回る。一部に課題がある管理運営が行われたもの
D 要改善	50%未満	目標・計画を大きく下回る。課題がある管理運営が行われたもの

講評及び次期指定に向けての課題等	
指定管理者に対する意見	施設所管課に対する意見
<p>【全般的な事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書類は適切に整備されている。 ・報告書等は遅滞なく適切に作成され、提出されている。 <p>【施設保守・運営管理】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務量の増加に対応して臨時職員を雇用(地元雇用)している点は評価できる。一方で、火葬件数が年々増加しているにもかかわらず、事業提案では非常勤の事務職員を「なし」としており、事務作業量の増加を見込めていない点は課題である。 ・職員の急な退職があったが、会社全体でバックアップ体制をとり、事業に支障が出ないよう対応した点は評価できる。 ・体制的に脆弱であるとも捉えられるため、どのような事態が発生しても対応できる組織体制の構築に努められたい。 ・R5年度の苦情およびR6年度の新人職員配置への対応として接遇研修を実施した点は評価できる。 ・事故発生時においても適切に対応できている。 ・毎年の防災訓練において消防本部職員が立ち会っていないことについては、次善の策として市役所職員の立ち会いなどを実施すべきである。 ・個人情報を書面で管理していることだが、インターネットやメールも利用しているため、インターネットによる個人情報漏洩についても視点を持ち、研修の実施等により、より一層の個人情報保護に努められたい。 <p>【事業の計画性・透明性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収支は赤字であり、計画に沿っているとは言えないが、法人の財務指標は良好である。 ・法人の監査人は通常交代しないものであるが、R4～R6年度については毎年交代している。会計方針の見解の相違などが生じないよう注意されたい。 <p>【住民・利用者の参画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果を反映し、できる範囲での対策を実施している点は評価できる。 ・事業者の意見を反映し、予約枠の時間変更などを行った点は評価できる。 	<p>【事業の計画性・透明性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理者との月1回のヒアリングだけでなく、従業員に対しても定期的なヒアリングを実施することが望ましい。